

大学共同利用機関法人自然科学研究機構
教育研究評議会（第21回）議事要旨

1. 日 時 平成21年6月15日（木）13:30～15:30

2. 場 所 自然科学研究機構会議室

3. 出席者 (評議員)

志村議長、小間評議員、笹月評議員、宮崎評議員、木下評議員、観山評議員、小森評議員、岡田（清）評議員、岡田（泰）評議員、中村評議員、石井評議員、勝木評議員、櫻井評議員、金子評議員、山森評議員、池中評議員、西評議員

(陪席者)

武田監事、野村監事

(庶務)

前田事務局次長、鈴木総務課長、平尾企画連携課長、長谷川財務課長ほか

(順不同)

4. 配付資料

- 1 教育研究評議会（第20回）議事要旨（案）
- 2-1 中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果
- 2-2 大学共同利用機関法人自然科学研究機構中期目標（素案）
- 2-3 大学共同利用機関法人自然科学研究機構中期計画（素案）
- 2-4 国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて（通知）
- 3-1 平成20事業年度に係る業務の実績に関する報告書（案）
- 3-2 平成20事業年度に係る業務の実績に関する報告書 抜粋版（案）
- 3-3 平成20事業年度に係る業務の実績に関する報告書（資料編）（案）
- 4-1 財務諸表（案）
- 4-2 事業報告書（案）
- 4-3 決算報告書（案）
- 5-1 平成22年度特別経費要求一覧表
- 5-2 平成22年度概算要求に係る重点事項の概要〔全国共同利用・共同実施分〕
- 5-3 平成22年度自然科学研究機構施設整備費概算要求総表（案）
- 6-1 平成21年度補正予算について
- 6-2 平成21年度補正予算の概要
- 7 機構における給与の改定について（案）
- 8 平成21年度分野間連携による学際的・国際的研究拠点形成事業（計画）一覧表
審議終了後回収 名誉教授関係資料

5. 議事等

議事に先立ち、議長から定足数及び配付資料の確認があった。

1) 前回議事要旨（案）について

教育研究評議会（第20回）議事要旨（案）が原案のとおり了承された。

2) 第二期中期目標・中期計画及び第一期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果について

資料2-1から資料2-4に基づき、観山評議員から第二期中期目標・中期計画及び第一期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果について説明があり、意見交換が行われた。

（主な意見は以下のとおり）

- 中期計画なので、表現が抽象的になるのはやむを得ないかもしれないが、基礎生物学研究所と生理学研究所の計画が何か教科書的であり、もう少し工夫してはどうか。
- 人体の中で脳が主体とならないように、脳と人体を一体として簡潔に記載したものである。
- 脳は人体の一部ではないのか。
- 「脳を中心とした人体の働き」という表現ではどうか。
- 脳を中心としない研究もあり、全ての研究者が納得する表現は難しい。表現については、再度検討したい。
- 基礎生物学研究所の表現については、前回の教育研究評議会で簡潔すぎるといった指摘があり、このように表現を変えた。
- 生物学の基礎分野では幅が広いので、このような表現に修正したが、もう少し検討したい。
- 国立天文台の部分に「新鋭観測装置の開発・整備」とあるが、具体的にはどのような観測装置、機器の開発を考えているのか。
- 特に開発部門に当てはまるのは、ALMA計画と、すばる観測装置の更新である。それを掲げて大きく表現した。
- 中期目標・中期計画は大まかな表現をし、年度計画において具体的な部分を記載する予定である。また、文部科学大臣の見直しで「女性や外国人研究者等の比率を考慮した採用」とあるが、女性を尊重するのはよいが、能力にかかわらず優遇するようなことは考えていない。
- 文部科学大臣の見直しにもあるが、「男女共同参画」以外に、「外国人も積極的に」との記載があるが、機構としては、今後ポジティブにいくのか、現状維持とするのか。
- ポジティブにいかうと思っている。外国人研究者を雇用する上で重要なことは、同行する家族にも日本に順応して生活できるように環境を整えることであり、その面の整備が必要である。研究者自身については差はないが、家族の問題等については、いろいろな面で対応する必要がある。
- 外国人研究者に対しては、国内の研究者と比べてもイーブンに考えている。条件を整える必要はあるが、外国人だからといって優遇するのではなく研究者としての素質がどうであるかが問題である。今後は、サバティカル制度による外国人研究者の受入を考えているので、その環境面での条件整備を整えていきたい。
- 研究面では日本は世界のトップクラスだが、国際的な交流についてはそうでな

い。大学では、外国人の教員を採用した場合、英語の授業が壁となる。その点では、大学共同利用機関の方が、バリアーが低いのではないか。

- 日本は国際化に消極的であり、バリアーが高い。例えば、全て英語の対応を可能とするとかレジデンスを配置するとか、もう一步踏み込んだ国際化を目指すための積極的なアクションプランが必要ではないか。
- 文部科学省へは、いろいろはアクションを起こしている。文化的背景もあると思うが、もう少し知恵を出さないと難しい状況である。実現するための手段が見えてこない。
- 「男女共同参画」の問題でいえば、特に研究部門で指導的立場の女性が少ない。日本を代表する研究所なので、具体的に女性の研究能力を伸ばす、開発するといった方策ができるよう、モデルとなってほしい。
- 大学院生、ポスドク、若手研究者の割合を調査してみたところ、大学院生において、女性研究者は増加傾向にあるが、ポスドク、助手となると少ないのが現状である。優遇するのは失礼にあたるが、現実に出産、育児等の問題があり、ケアしてはいるがまだまだ足りないのが現状である。女性の大学院生等をもっと増やさなければならないと思うが、我々の研究分野の特殊性により少ないのかもしれないが、まずは現状を調査したい。
- イーブンな競争だとは思いますが、出産、育児等があれば、本当にイーブンと言えるのか。具体的なサポートシステムを含めたアクションプランみたいなものが機構として必要ではないか。
- 子供、住居等の問題もあるので、機構だけでは解決しない。我々の研究分野では、女性研究者の母数が少ないので、女性にとって負担になる部分が多いと思われるため、働きやすい環境にする必要がある。
- 中期目標・中期計画とは問題を切り離して考えたい。中期目標・中期計画に積極的に記載した場合には、そのことがかえって足枷になりかねない。無難な記載はいたしかたがない。女性研究者へのサポートの必要性の認識は十分持っている。研究者を呼んでも断られたような例を挙げ、分析結果を政府にメッセージとして伝えたい。

3) 平成20事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について

資料3-1から資料3-3に基づき、観山評議員から平成20事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について説明があり、意見交換が行われた。

(主な意見は以下のとおり)

- 新分野創成の中で、ブレインサイエンス、イメージングサイエンスの表現では、何が新しいのか分からない。もうひと工夫必要なのではないか。
- 両方が独立した分野となっている。例えば、国立天文台の4D2Uを生物、脳にも応用していくことを考えており、既存のものではない。ブレインサイエンスについては、既にコミュニティーが存在しており、今後、脳科学的にどうするかを考えている。いろいろな分野を統一し、今から新しい分野を作っていくものである。
- キーワードの問題だが、もっと新しいイメージが与えられるようにしてはどうか。
- 方向論を追求するのではなく、何をするかが問題である。

- 新分野なので、言葉で表せないといえればそれまでだが、表現の問題を言っている。
- 自然科学のアプローチと人文科学のアプローチの接点を探り、医だけではなく、理、工、人文を統合していきたいと考えている。

4) 平成20年度財務諸表等について

資料4-1から資料4-3に基づき、木下評議員から平成20年度財務諸表等について説明があり、審議の結果、了承された。

5) 平成22年度概算要求について

資料5-1から資料5-3に基づき、木下評議員から平成22年度概算要求について説明があり、審議の結果、了承された。

(主な意見は以下のとおり)

- 平成21年度との比較で確認したいが、平成21年度は何件採択され、平成22年度はどの程度となるのか。
- 各機関で1件から2件は採択されているが、来年度どうなるかは何の保証もない。機構としても、分野間連携とブレインサイエンスネットワークの2件が採択された。

6) 平成21年度補正予算について

資料6-1及び資料6-2に基づき、木下評議員から平成21年度補正予算について説明があり、審議の結果、了承された。

7) 機構における給与の改定について

資料7に基づき、木下評議員から国家公務員と同様に期末勤勉手当の引き下げを行うこと及び寒冷地手当を見直す予定であることの説明があり、審議の結果、了承された。

8) 名誉教授の称号授与について

審議終了後回収資料に基づき、事務局から名誉教授関係規程等について説明があった後、観山評議員から、名誉教授称号の授与候補者について説明があり、審議の結果、案のとおり了承された。

9) 平成21年度分野間連携による学際的・国際的研究拠点形成事業について

資料8に基づき、勝木評議員から平成21年度分野間連携による学際的・国際的研究拠点形成事業について報告があった。

10) 自然科学研究機構シンポジウム(第8回)について

勝木評議員から自然科学研究機構シンポジウム(第8回)を9月23日に学術総合センターにおいて開催することの報告があった。

11) 次回開催について

今回は、12月17日(木)13時30分から開催することとされた。